

HOKURIKU ECONOMIC FEDERATION

北経連会報 | Aug. 2026

No. 228



北陸は一つ。

2026年度定期総会	01
会長挨拶	02
活動報告	04
北陸経済連合会 2026年度の主要行事スケジュール / 北陸経済連合会《事務局》	18
新会員のご紹介 / 新規会員ご紹介のお願い	19



北陸経済連合会 設立の経緯

1967年、「“北陸は一つ”であるとの認識のもと、北陸の経済人が結集し、経済人の創意のもとに北陸の発展可能性を追求し、公正なる見解をとりまとめ、その実現に努力する場」として北陸経済連合会が設立されました。

2026年度定期総会



2026年度定期総会・
第118回理事会・特別講演

日時：6月2日（火）13:30-16:20
場所：ANAクラウンズラザホテル金沢
参加：169名（会場131名、オンライン38名）

定期総会では会長挨拶に続き、以下の3議案について審議され、原案のとおり承認された。

（第1号議案）2025年度事業報告および決算(案)

（第2号議案）2026年度事業計画および収支予算(案)

（第3号議案）役員選任(案)

続く第118回理事会では、役付理事・参与選任(案)が審議され、原案のとおり承認された。

役員人事については次の通り決定した（6月2日付、敬称略）。

＜常任理事＞

（I）新任

浦 俊夫〔伏木海陸運送(株)代表取締役社長〕

（取締役会長 大門督幸から交代）

高本崇弘〔澁谷工業(株)専務執行役員〕

（上席参与 本多宗隆から交代）

中澤 宏 〔(株)北陸銀行 代表取締役頭取〕

（特別顧問 麦野英順から交代）

小林 工 〔北陸鉄道(株) 代表取締役社長〕

（相談役 宮岸武司から交代）

（2）退任

福光松太郎 〔(株)福光屋 代表取締役会長〕

朝日重剛 〔朝日印刷(株) 会長〕

＜理事＞

（I）新任

福光松太郎 〔(株)福光屋 代表取締役会長〕

木村淳二 〔鹿島建設(株)常務執行役員北陸支店長〕

角野淳一郎 〔清水建設(株)執行役員北陸支店長〕

福田哲生 〔(株)日立製作所 北陸支社長〕

小野陽一 〔三菱重工業(株)北陸支社長〕

朝日重紀 〔朝日印刷(株)代表取締役社長〕

（2）退任

川田達男 〔セーレン(株)代表取締役会長

最高経営責任者〕

湯浅 徹 〔(株)福邦銀行 代表取締役頭取〕

（現 (株)福井銀行 顧問）

この後、東京大学名

誉教授の伊藤元重氏が

『経済の展望と企業経

営』と題して特別講演を

行った。伊藤氏は、経済

をみる上で重要な点とし

て「鳥の目」(マクロの視

点)、「虫の目」(ミクロの

視点)、「魚の目」(潮の流れを見極める)の3つを挙げる

とともに、デフレの罠から脱却してインフレ経済へと転

換していく中で留意すべき点や、現政権の経済政策・

財政政策に関する評価等について指摘された。



会長挨拶



はじめに

皆様、本日は大変ご多用のところ、北陸経済連合会定期総会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、皆様方には日頃から当会の活動に対しまして格別のご高配を賜っております。重ねて御礼を申し上げます。

定期総会議案の審議に入ります前に、最近の情勢等につきまして簡単に話をさせていただきたいと思います。

中東情勢

はじめに、中東の混乱についてであります。

現在、アメリカとイランの間で戦闘終結に向けた話し合いが進められておりますけれども、未だなかなか合意に至っていないというのが現状であります。

また、合意に至ったといたしましても、その後は合意事項がきちんと履行されていくか、特にホルムズ海峡がいつ、どのような形で通行可能となっていくかが焦点になると見ております。

ホルムズ海峡が完全に元の形で自由に通行できるように

なるためには、機雷の状況を含む航行の安全確保のための枠組みづくりや船舶保険の正常化などで相当の期間が必要とされております。さらに、被害を受けた湾岸諸国の石油・LNG関連施設がどのようなタイムラインで復旧されていくかも課題でありまして、今回の紛争の影響は長期にわたるものと見ております。

北経連が行いました会員アンケートの速報値では、北陸の景況判断指数は昨年度下期のプラス6.3ポイントから、今年度上期はマイナス43.7ポイントと大幅に悪化し、8割以上の企業で中東の影響があるとの回答でありました。原材料費の高騰、物流の遅延・混乱、エネルギー費の高騰などが懸念材料としてあがっております。

昨年の世界の原油海上貿易量の25%、LNG貿易量の20%がホルムズ海峡経由で行われておりまして、海峡封鎖は世界経済、アジア経済に非常に大きな影響を及ぼしておりますけれども、特に日本は昨年の原油輸入量の94%を中東に依存し、海峡の依存度は93%にも及んでおりまして、フィリピンやベトナムと並んで世界で最も大きな影響を受ける国と言われております。

このため、現在、官民あげて代替調達の取り組みが行われており、6月には昨年の同月比7割から8割程度は海峡を通さずに調達する目処が立っていると言われております。

不足分は備蓄を必要に応じて取り崩して賄うこととされておりますが、全体として見ますと、当面の供給量は確保されておりますが、ナフサ等の石油製品やさらには中間製品、誘導品等個別の品目レベルになりますと、それぞれ輸入依存度が異なっていることや、輸送貯蔵設備の制約などで供給に支障が出ることも考えられ、今後適切な対策が求められております。

過去2度にわたりオイルショックを経験した日本にとりまして、中東依存度の低減は大きな課題であり、何度か依存度低減のための取り組みが進められてきましたが、安定的に大量の原油を供給できる国に限られていることなどから、結果的に現在の大きな中東依存度となっていたのが現状であります。

今後は改めて原油の中東依存の低減に努めることは当然といたしまして、適切な備蓄規模の検討や、さらには原油のみならず、ナフサやその他石油製品の備蓄も含め、全体としてのバランスを確保することなど、総合的な対策が必要であるように思っております。

北陸新幹線

次に北陸新幹線についてであります。

現在、敦賀・新大阪間のルートにつきまして、与党北陸新幹線敦賀・新大阪間整備委員会におきまして、日本維新の会提案の8ルートについて検証が行われており、今国会の会期末までに結論を得よう議論が進められております。

これまで、JR西日本、JR東海、福井県、滋賀県、そして関経連と当会の6つの団体が延伸ルートについて意見を述べておりますけれども、JR東海を除く5団体はいずれも「小浜・京都ルート」を支持する意見を表明し、JR東海は北陸新幹線が米原駅で東海道新幹線に乗り入れることは困難との見解を示しております。

今後、京都府・市、大阪府・市が意見を述べることとなっております。これらの自治体がどのような意見を述べるかが大きなポイントになると考えております。

北陸新幹線には大きな経済波及効果とともに、国土強靱化の観点から、大規模地震など太平洋側の有事に備え、首都圏と関西圏を結ぶ東海道新幹線の代替機能の確保、さらには日本海国土軸の形成など、多くの機能が期待されますが、

これらの機能は新大阪まで東海道新幹線とは完全に別ルートで結んではじめて最大限発揮されるものでありますので、これらの点を踏まえ、早急にルートを決定し、あわせて着工5条件等の諸課題を解決するよう関係各所に求めてまいりたいと考えております。

以上、最近の情勢につきまして簡単に話をさせていただきました。

それでは、本日はどうぞよろしくお願いいたします。

以 上

2026年	2月27日(金)	北陸広域観光推進協議会北陸地区観光商談会	P.05
	3月11日(水)	カーボンニュートラルBASE北陸ビジネスマッチング相談会	P.05
	3月17日(火)	2025年度第2回 人財活躍推進委員会	P.05
	3月17日(火)～19日(木)	「SMART ENERGY WEEK・サステナブル経営WEEK」に出展	P.06
	3月24日(火)	2025年度第2回 新たな価値創出委員会	P.06
	3月25日(水)	北陸戦略連携協議会(第2回)	P.06
	3月26日(木)	2025年度第2回 国際委員会	P.07
	3月30日(月)	2025年度第2回 社会基盤委員会	P.07
	4月6日(月)	2025年度第2回 観光委員会	P.08
	4月9日(木)～10日(金)	ベトナム戦略的幹部研修受け入れ	P.08
	4月10日(金)	ベトナム政府高官との交流懇親会	P.09
	4月13日(月)	2025年度第3回 総合対策委員会	P.09
	5月7日(木)	富山県北陸新幹線対策連絡協議会・北陸新幹線建設促進富山県民協議会 合同決起大会	P.10
	5月12日(火)	北陸新幹線北陸三県合同中央要請	P.10
	5月14日(木)	政府予算等に対する要望検討ワーキング(第1回)	P.11
	5月19日(火)	オープンデータ利活用WG(第1回)	P.11
	5月25日(月)	第117回理事会・第367回常任理事会 合同会議	P.12
	5月31日(日)	令和8年度福井県北陸新幹線建設促進 同盟会総会	P.12
	6月10日(水)	第1回 海外現地情勢報告セミナー ～インド特集～	P.12
	6月13日(土)	令和8年度北陸新幹線小浜・京都ルート建設促進同盟会総会	P.13
	6月15日(月)	西日本経済協議会イノベーション分科会	P.13
	6月29日(月)	2026年度 第1回総合対策委員会	P.14
	7月7日(火)	第368回常任理事会	P.14
	7月9日(木)	オープンデータ利活用WG(第2回)	P.15
	7月13日(月)	北陸戦略連携協議会(第3回)	P.16
	7月22日(水)	第13回北陸産学連携懇談会	P.16
	7月22日(水)	金沢大学見学会	P.17

北陸広域観光推進協議会 北陸地区観光商談会

日 時：2月27日(金) 13:30-16:30
場 所：ホテルモントレ大阪
参 加：約150名

北陸広域観光推進協議会は、北陸三県の観光連盟との共催により、北陸の観光事業者が旅行事業者に対して、観光素材を活用し直接PRする観光商談会を大阪で開催した。

当日は、大手旅行会社に限らず、関西圏の中小旅行会社も参加し、北陸事業者は最新の観光素材の魅力を紹介し、旅行商品の造成を働きかけた。

能登の観光需要の喚起、応援消費の促進を図るための「今行ける能登団体旅行応援キャンペーン」についても旅行会社に紹介した。



カーボンニュートラルBASE北陸 ビジネスマッチング相談会

日 時：3月11日(水) 13:30-16:30
場 所：福井銀行本店
参 加：約100名
出店企業：21社(金沢機工、環境微生物研究所、日立製作所・日立システムズ、福井県、北陸電力 他)

産学官金連携プラットフォーム「カーボンニュートラルBASE北陸」は福井県坂井市と共催で、カーボンニュートラルに関するビジネスマッチング相談会を開催した。カーボンニュートラル関連の技術やサービスの紹介、個別相談などを通じて、来場者とのビジネス

マッチングの機会を創出した。

当日は約100名が参加し、出展者と来場者の間で活発な意見交換や相談が行われ、新たな連携の可能性が広がる機会となった。「カーボンニュートラルBASE北陸」もプラットフォーム参画者の拡大に向け出展し、ウェブサイト掲載や今後開催するイベント参加の提案等を行った。



2025年度第2回 人財活躍推進委員会

日 時：3月17日(火) 16:00-17:00
場 所：金沢ニューグランドホテル(オンライン併催)
参 加：10名(会場7名、オンライン3名)

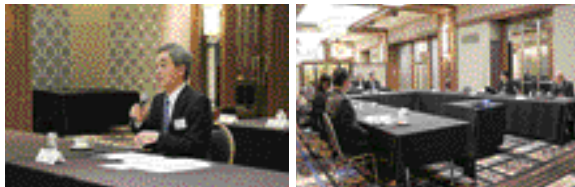
林委員長は冒頭挨拶で、前回の委員会での議論を振り返り、DEIは単なるスローガンではなく人財活躍を実現する「手段」であるという認識が共有されたと述べた。また、多様な人が働きやすく、力を発揮できる環境づくりを推進することこそが人財活躍推進委員会の使命であると強調した。

事務局からは、2025年度事業計画の実施状況と評価・方向性を報告、第六次中期アクションプランおよび2026年度事業活動方針を説明し、2026年度事業計画(案)について審議した。また、北陸先端科学技術大学院大学の寺野学長から人文学・社会科学系出身の学生の受入れの推進とJAISTの社会人コースについて紹介があった。

委員からは、北経連の活動のPR方法やホームペー

活動報告

ジ運用に関する意見のほか、人口減少社会の中で、学生に北陸企業や北陸地域に魅力を感じてもらうための一歩踏み込んだ取り組みへの提案など、今後の委員会活動に反映すべき視点について活発な議論が交わされた。

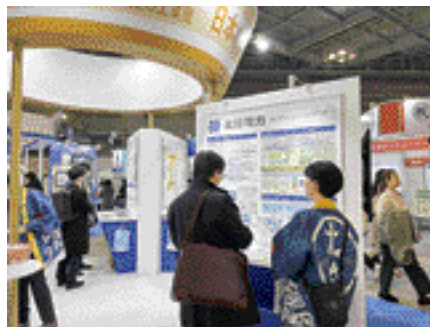


「SMART ENERGY WEEK・サステナブル経営WEEK」に出展

日 時：3月17日（火）～19日（木）
場 所：東京ビッグサイト

北陸国際投資交流促進会議（以下「北投促」）は、「SMART ENERGY WEEK・サステナブル経営WEEK」に出展し、企業誘致活動の一環として、立地条件の良さ・助成事業・人材の優秀さを紹介した。その中で北経連は、北陸域内のカーボンニュートラルを支援する取り組みを中心に来場者と情報交換を行った。今後は北陸地域への企業進出の具体化を促すべく、アプローチしていく。

※北投促：北陸三県・北陸電力・北経連で構成



2025年度第2回 新たな価値創出委員会

日 時：3月24日（火）15:30-17:00
場 所：ANAクラウンスラザホテル金沢
参 加：13名（会場9名、オンライン4名）

北村委員長は冒頭挨拶で、日本の時間当たり労働生産性がOECD加盟国38カ国中28位と低迷していることに触れ、この対策として、DX、IoT、AIなど最新のテクノロジーを駆使した設備投資が最も有効だという考えを示した。また、今後もこの委員会でDX、IoT、AI、デジタル人材の育成などに取り組んで、北陸の価値創出を支えていきたいと述べた。

事務局からは、2025年度事業計画の実施状況と評価・方向性を報告、第六次中期アクションプランおよび2026年度事業活動方針を説明し、2026年度事業計画（案）について審議した。

委員からは、「生産性の向上にはAIの利活用が有効であり、AIを前提として業務の進め方を見直す必要がある」「AI技術の進歩により、オープンデータを活用しやすい環境が今後整っていくと考えられるため、長期的な視点でオープンデータの利活用を推進していくことが必要である」などの発言があり、今後の事業活動に鋭意反映させていくこととした。



北陸戦略連携協議会（第2回）

日 時：3月25日（水）14:00-16:30
場 所：TKPガーデンシティPREMIUM金沢西口
参 加：19名（会場8名、オンライン11名）

北陸の三県と経済界が連携して取り組むべき諸テーマについて、必要な連携策実施に向けて実務者レベルで議論を深めるための「北陸戦略連携協議会」を開催した。当協議会は今年度の「三県知事との懇談会」で合意され立上げたもので、今回は第2回目。

2025-2027年度のテーマである「アンコンシャス・バイアスへの気づき」にもとづき、三県と当会で連携して実施する施策案について議論した。

メンバーからは、企業との協働が官民連携の意義の一つである、単県での取り組みを三県に広げていくこともできる、地域のありたい姿を整理し、その実現のための施策を打ち出すべき、といった意見が出された。

今後、連携策を取りまとめ、2026年8月の「三県知事との懇談会」にて提示する予定。



2025年度第2回 国際委員会

日 時：3月26日（木）16:00-17:20
場 所：ANAクラウンスラザホテル金沢
参 加：18名（会場8名、オンライン10名）

高納委員長は冒頭挨拶で、世界経済は、AI・デジタル分野への投資拡大を背景に成長が見込まれる一方、貿易政策や地政学的リスクなど不確実性も残る状況にあると述べた。また、米国では政策面の不透明さが続く中でも民間需要は底堅く、中国は政策効果により持ち直しが見られること、さらには日本経済も個人消費や設備投資の改善により緩やかな回復が続いている点を踏まえ、地政学的リスクの動向を引き続き、

注視していく必要があることを強調した。

事務局からは、2025年度事業計画の実施状況と評価・方向性を報告した上で、第六次中期アクションプランおよび2026年度事業活動方針を説明し、2026年度事業計画（案）を審議した。

2026年度事業計画については、ベトナムやインドネシア、韓国との交流継続に加え、インドへの展開強化を議論した。委員からは、「インドは人口を背景とした有望な消費市場であり、アフリカ向け輸出拠点としても注目し、住宅開発や工業団地、消費ビジネスなど多面的に投資を進めている」との意見も出された。一方で、海外理解には現地訪問が不可欠であり、日本側からの積極的な調査機会の創出が必要とされた。また、若者の海外志向の低下が課題として挙げられ、自治体や大学などが留学支援を行い学生に海外経験を積ませることが、就職面でプラスになることや人材育成に繋がることが議論された。



2025年度第2回社会基盤委員会

日 時：3月30日（月）16:00-17:00
場 所：ANAクラウンスラザホテル金沢
参 加：14名（会場12名、オンライン2名）

光野委員長は冒頭挨拶で、北陸地域における陸・海・空各々の社会基盤整備を取り巻く状況と整備促進の継続と災害に強い基盤整備・企業防災減災の更なる強化の必要性について述べた。

事務局からは、2025年度事業計画の実施状況と評価・方向性の報告、第六次中期アクションプランおよ

活動報告

び2026年度事業活動方針を説明し、2026年度事業計画（案）について審議した。

委員からは、「観光、自然災害対応や事故防止の観点から高規格道路の4車線化促進の必要性」、「二次交通が置かれている現況と路線網継続へ向けての支援」といった視点から意見交換が行われた。これらの意見を今後の事業活動に鋭意反映させていきたい。



2025年度第2回 観光委員会

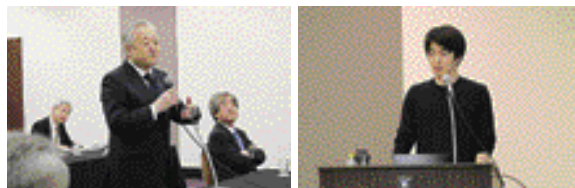
日 時：4月6日（月）12:20-14:30
場 所：金沢ニューグランドホテル
参 加：18名（会場17名、オンライン1名）

米沢委員長は冒頭挨拶で、観光データを活用した外国人旅行者の長期滞在に繋がる取り組みへの期待を示した。また、和倉温泉や金沢市内の整備に域外資本が参入していることに触れ、課題と期待がある中で変化を逃さず対応していくことの重要性を強調した。

事務局からは、2025年度事業計画の実施状況と評価・方向性を報告、第六次中期アクションプランおよび2026年度事業活動方針を説明し、2026年度事業計画（案）について審議した。委員からは、外国人旅行者が求める体験の変化への対応や、広いエリアを観光してもらうことを目的とした北陸三県で連携したブランディングの必要性など、様々な意見が交わされた。

委員会終了後は、「北陸三県連携による観光データの活用」について、石川県デジタル推進監室データアナリストの羽生田文登氏が講演した。北陸三県共通のQRコードアンケートで蓄積されたデータをオープンに

することで各県にとって有効な施策が生まれることや、データに基づく観光客のペルソナ分析からターゲットを絞った広告発信を行い想定4倍の効果があったことなどが紹介された。



ベトナム戦略的幹部 研修受け入れ

日 時：4月9日（木）～ 10日（金）
場 所：富山県、津田駒工業(株)、ニッコー(株)、
中村留精密工業(株)

当会は、政策研究大学院大学、ベトナム共産党中央組織委員会およびJICAが実施する幹部研修プロジェクトの一環として、ベトナムの副大臣・局長級14名による視察受入に協力した。

初日は富山県庁にて新田知事への表敬訪問後、ウェルビーイング施策および地域交通政策に関する研修を受講した。地方自治体が直面する課題への具体的な対応事例が紹介され、参加者との間で活発な質疑応答が行われた。

翌日は産業視察を実施した。まず津田駒工業(株)にて北野専務による説明を受けた後、展示室にて高性能織機を見学し、製品の構造や技術に対して参加者から高い関心が寄せられた。続いて、ニッコー(株)では、三谷充会長および三谷明子社長らから、ベトナムにおける浄化槽プロジェクトや廃陶磁器を活用した再生肥料事業について説明後、工場見学を実施し、多様な観点から活発な意見交換が行われた。最後に中村留精密工業(株)では、深山取締役の挨拶の

後、製品構成や技術に関する説明を受けた。複合加工機やAGV（無人搬送車）の見学を通じて、同社のものづくりへの姿勢やDX化への取り組みに対する理解を深める機会となった。



ベトナム政府高官との 交流懇親会

日 時：4月10日（金）18:00-19:30
場 所：ANAクラウンズホテル金沢
主 催：北経連／北陸AJEC・政策研究大学院大学・
国際協力機構（JICA）
参 加：49名

ベトナム戦略的幹部研修生と北陸企業・団体との交流懇親会を開催した。会場では、参加者同士が積極的に言葉を交わし、名刺交換や情報共有が随所で見られるなど、活発な意見・情報交換が展開された。北陸企業の取り組みやベトナムの最新動向について具体的な話題が飛び交い、相互理解を深める有意義な時間となった。

中締め挨拶では、北陸ベトナム相互企業進出促進協会の三谷会長が両国間の経済交流の重要性に触れるとともに、北陸企業によるベトナム進出のさらなる活性化への期待が述べられた。

懇親会は終了時刻まで熱気を保ったまま、各所で歓談と交流が続き、終始活発で実りあるひとときとなった。



2025年度第3回総合対策委員会

日 時：4月13日（月）16:00-17:00
場 所：ホテル日航金沢
参 加：20名（会場16名、オンライン4名）

稲垣委員長は冒頭挨拶で、中東情勢の悪化に伴うホルムズ海峡の事実上の封鎖に触れ、アンケート結果を踏まえ北陸企業の影響や今後注視する必要性について述べた。また、第六次中期アクションプランを無事に公表できたことを報告し、新プランの始動に向けた決意を表明した。

事務局からは、2025年度事業計画の実施状況と評価・方向性を報告、第六次中期アクションプランおよび2026年度事業活動方針を説明し、2026年度事業計画（案）について審議した。また、2026年度政府要望活動の方向性、広域リージョン連携の進捗状況について報告を行った。

委員からは、能登復興に関しては会員が行動できる仕組みが必要、防災・減災に関する講演会については事業継続の視点を強化すべき、サイバーセキュリティやAIの観点が必要など、多くの意見が交わされた。

活動報告



富山県北陸新幹線対策連絡協議会・北陸新幹線建設促進富山県民協議会 合同決起大会

日 時：5月7日（木）15:30-16:30
場 所：ANAクラウンスラザホテル富山

富山県の北陸新幹線対策連絡協議会・県民協議会の合同決起大会が開催され、北陸経済連合会から金井会長、関西経済連合会から蔭山リニア・新幹線専門委員長をはじめ、約140名が参加した。

新田富山県知事はあいさつで与党の議論に触れ、「全線開業が一日も早く実現するよう、力強く働きかけていく」と述べた。

金井会長は、新幹線開業による観光や企業進出の拡大など、大きな経済効果が生まれていることを強調した。また、敦賀以西の整備に関しては、早期に駅位置・ルートを決定し、着工5条件などの課題解決を進める必要性を強調した。

さらに、経済波及効果が最も高く、東海道新幹線とは別ルートで東京・大阪間を結ぶ「小浜・京都ルート」が望ましいとの考えを示し、早期全線開業に向けた関西での機運醸成に全力で取り組む決意を表明した。

大会は、敦賀以西の一日も早い認可・着工実現のため、沿線住民の理解促進や必要な予算の確保等を強く求める決議を採択し、閉会した。

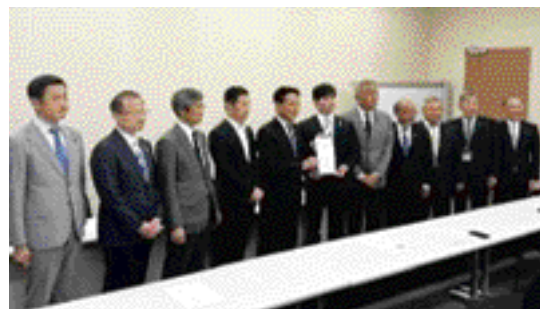


北陸新幹線 北陸三県合同中央要請

日 時：5月12日（火）14:50-16:30
場 所：国土交通省、衆議院第二議員会館

北陸新幹線の敦賀―新大阪間の延伸をめぐり、金井会長と北陸3県の知事らは、東京都内で国土交通省および与党関係者に対し、今国会中に確実にルートを決定するよう要望した。

国交省では、佐々木紀副大臣と上田英俊政務官に要請書を提出。また、与党整備新幹線建設促進プロジェクトチームに対しては、自民党の渡海紀三郎衆院議員、西田昌司参院議員、稲田朋美衆院議員、日本維新の会の前原誠司衆院議員、柴田巧参院議員らと面会した。



金井会長は、金沢―敦賀間の開業によって非常に大きな経済波及効果が生まれており、大阪まで全線開業すれば、現在以上の効果が期待できると強

調した。さらに、敦賀―新大阪間の整備にあたっては、「小浜・京都ルート」が最も高い効果を発揮すると訴えた。北陸地域の経済界として、一日も早い全線開業を強く求める姿勢を示した。

政府予算等に対する 要望検討ワーキング（第1回）

日 時：5月14日（木）15:30-17:00
場 所：ホテル日航金沢（オンライン併催）
参 加：28名（会場24名、オンライン4名）

2026年度の「政府に対する北陸経済界からの要望書」の作成に向け、幅広い業種における会員企業の実務者クラスで構成するワーキングを開催し、事務局が作成した要望の方針、要望書の全体構成、新規要望事項の取り扱い等について議論した。

メンバーからは、「能登の人口減少・人手不足や建築資材高騰に対する支援が急務、創造的復興の視点が必要」「中東情勢の緊迫化の影響で資材の入手が困難、影響の長期化が不安」といった意見が出された。

今回の議論を踏まえ、第2回ワーキングで要望書案を取りまとめ、6月29日（月）の総合対策委員会、7月7日（火）常任理事会を経て要望書を決定し、8月6日（木）に都内で政府与党、関係省庁への要望活動を行った。



オープンデータ利活用WG （第1回）

日 時：5月19日（火）15:00-17:00
場 所：TKPガーデンシティPREMIUM金沢駅西口

第六次中期アクションプランにおいて新たに取り組む「オープンデータ利活用の推進」を目的としたワーキンググループを開催し、今年度の活動内容の事務局案について議論を行った。

メンバーからは、データドリブンの考え方（客観的な事実であるデータを分析し、その結果に基づいて意思決定を行うアプローチ）を浸透させることの重要性などが指摘された。

今後は、観光DXなどの先進分野に関する事例共有セミナーの開催や、北経連WEBサイトに掲載している「データでみる北陸」のオープンデータ化に取り組む方向で一致した。



活動報告

第117回理事会・第367回 常任理事会 合同会議

日 時：5月25日（月）12:20-14:00
場 所：ホテル日航金沢

2026年度定期総会に付議予定の2025年度事業報告・決算、2026年度事業計画・予算、役員選任ならびに同日開催する理事会に付議予定の役付理事・参与の各議案について審議し、原案どおり了承された。



令和8年度福井県北陸新幹 線建設促進 同盟会総会

日 時：5月31日（日）13:30-15:00
参 加：JA福井県小浜支店

福井県北陸新幹線建設促進同盟会の総会が小浜市内で開催された。会長の石田福井県知事や市町長、福井県選出の国会議員、関西経済連合会の榎原副会长、北陸経済連合会から金井会長が出席した。

石田知事はルート再検証について「時計の針を巻き戻す議論だ」と遺憾の意を表し、与党整備委員会に対して福井県や滋賀県、北経連などの経済団体が要望した小浜・京都ルートの特長性を再確認するよう求めた。金井会長は、「現在、与党の整備新幹線検討委員会において、小浜・京都ルートや舞鶴ルートなど、8ルートの比較検討が行われているが、北陸経済連合

会としては、速達性・利便性、さらに京都を経由し、経済波及効果が最も大きく、東海道新幹線とは完全に別ルートで東京・大阪間を結ぶ小浜・京都ルートが最適であると考えている」と述べ、敦賀・新大阪間の一日も早い着工を実現するため、早期のルート決定と着工に向けた諸課題の解決に関係機関に求めたいとの意向を示した。



第1回 海外現地情勢報告 セミナー ～インド特集～

日 時：6月10日（水）14:00-15:20
形 式：オンライン開催
参 加：55名
内 容：「インド市場開拓と製造業進出の実務ポイント」
講師：JETROニューデリー事務所
所長 鈴木 隆史氏
「インド進出における概要と金融支援」
講師：国際協力銀行 ニューデリー事務所
首席駐在員 遠藤 徹 氏

高納委員長は冒頭挨拶で、当会の会員アンケート結果を踏まえ、インドに進出している北陸企業がまだ限定的な現状に触れつつ、同国は旺盛な消費市場でありながら生産年齢人口の厚さを背景に生産拠点としても大きな可能性を秘めていることを強調し、現地の実情に直接触れる機会の創出の重要性を訴えた。

本セミナーでは、現地ならではのインドの最新のビジネス環境や経済動向、地域毎の特徴の報告の他、製造業進出にあたっての実務的なポイント、現

地法規制対応、リスク分析等に関し、実践的かつ臨場感あふれる情報が報告された。

当会は本セミナーで得られた知見を今後の 会員企業のインドへの進出支援に役立てたい。



令和8年度北陸新幹線小浜・ 京都ルート建設促進同盟会総会

日 時：6月13日（土）14:30-16:30
場 所：JA福井県小浜支店

北陸新幹線小浜・京都ルート建設促進同盟会の総会が小浜市内で開催された。会長の杉本和範小浜市長や石田福井県知事、福井県南部の市町長、福井県選出の国会議員等、北経連からは東田専務理事が金井会長の代理として出席した。

杉本会長は開会挨拶で、「一日も早い小浜・京都ルートでの全線開業へ総力を結集し、未来を勝ち取ろう」と語った。

東田専務理事は、「現在、与党整備委員会にて8ルートの検証が行われているが、北経連が整備委員会のヒアリングを受けた際にも、小浜・京都ルートが速達性・利便性や経済への波及効果などから最適であるとの意見を述べさせていただいた、引き続き、福井県をはじめ、北陸各県、関西の経済団体の皆様と連携して早期の全線開業に向け取り組んで行く」との金井会長の祝辞を代読した。



西日本経済協議会 イノベーション分科会

日 時：6月15日（月）13:30-15:20
場 所：金沢商工会議所
参 加：14名（北経連事務局3名含む）

西日本経済協議会のイノベーション分科会を金沢市内で開催した。「スタートアップ・エコシステム拠点都市／他経連との連携強化について」をテーマに、各経済連合会の取組みについて情報を共有し、意見交換を行った。

当会からは北陸スタートアップ・エコシステムコンソーシアム（HOSTEC）における当会の役割を発表し、他経連との連携強化としてピッチ共催を求めた。また、同席した福井県産業労働部経営改革課の玉井参事より、HOSTECの具体的な取組みや今後の活動予定などを説明した。



2026年度 第1回総合対策委員会

日 時：6月29日（月）12:20-13:30
場 所：ANAクラウンスラザホテル金沢
参 加：21名（現地12名、オンライン9名）

稲垣委員長は冒頭の挨拶で、「政府に対する北陸経済界からの要望書」に記載した重点要望事項の現状や要望ポイントについて述べた。また、地方と東京での賃金格差について触れ、東京一極集中是正のためにも北陸での地域経済循環を更に太くしていく必要性を強調した。

委員会では、「政府に対する北陸経済界からの要望書（案）」および「能登復興プロジェクト」について審議した。

要望書（案）に対し、委員からは、重点要望事項を厳選・重点化して示す方針に賛同が示されたほか、生産性向上は賃金引上げのためにも非常に重要な要素であるとして、国へ確実に要望すべきなどの意見が出された。



能登復興プロジェクトについては、各社の復興に向けた新たな取組が紹介されたほか、今後開設されるWEBサイトの長期的な運営について意見が寄せられた。

第368回常任理事会

日 時：7月7日（火）12:20-13:15
場 所：金沢ニューグランドホテル
参 加：32名（来場27名、オンライン5名）

冒頭の挨拶で金井会長は、わが国の経済情勢について、中東の混乱による影響が懸念されていたものの、実際には景気が底堅く推移しており、米国とイランによる覚書締結もあって、戦後最長の景気拡大期間（いざなみ景気）を更新する可能性について指摘した。このほか、北陸新幹線の敦賀・新大阪間のルートに関する与党整備委員会での検討動向を注視していく必要性や、本年4月に実施した会員アンケート結果について触れた。

続いて、2つの議案について審議が行われた。

まず、6月の定期総会以降の当会役員の人事異動等を踏まえ、以下のとおり役員の補充選任を行った（敬称略）。

<常任理事>

- 平田 互 [北陸電気工事(株)代表取締役会長]
(相談役 水谷和久から交代)
- 新庄 一洋 [富山地方鉄道(株)代表取締役社長]
(取締役相談役 中田邦彦から交代)
- 高田 一哉 [トナミ運輸(株)代表取締役社長]
(JPトナミグループ(株)前代表取締役社長 高田和夫から交代)
- 長谷川 英介 [中日本高速道路(株)執行役員
金沢支社長]
(前執行役員金沢支社長 森島貴代治から交代)
- 松山 弘樹 [西日本旅客鉄道(株)執行役員

金沢支社長]
(前執行役員金沢支社長 石原利信から交代)

- 川田 英二 [NTT西日本(株)北陸支店長]
(前北陸支店長 小杉佳世子から交代)
- 水口 世紀 [立山科学(株)代表取締役社長]
(前代表取締役社長 水口勝史から交代)

<理事>

- 平野 正治 [石黒建設(株)代表取締役社長]
(前代表取締役社長 齊藤泰輔から交代)
- 柏木 拓郎 [ジェイ・バス(株)代表取締役副社長]
(前代表取締役社長 西原正人から交代)
- 田林 聖志 [北陸通信ネットワーク(株)
代表取締役社長]
(前代表取締役社長 徳光吉成から交代)
- 今村 栄夫 [北陸電機製造(株)代表取締役社長]
(前代表取締役社長 大西賢治から交代)
- 今久保 圭 [日本銀行 金沢支店長]
(前金沢支店長 大川真一郎から交代)
- 松井 一乃 [(株)北計工業 代表取締役社長]
(取締役会長 松井富雄から交代)

<参与>

- 山口 晋司 [福井県経営者協会 専務理事]
(前専務理事 山埜浩嗣から交代)
- 畦内 一夫 [(一社)石川県経営者協会 専務理事]
(前専務理事 橋本政人から交代)

次に、今年度の「政府に対する北陸経済界からの要望書」（案）について審議を行った。

【2026年度の重点要望事項】

1. 北陸新幹線の大阪までの早期全線開業
2. 北陸経済の持続的成長の実現

3. 令和6年能登半島地震・奥能登豪雨からの復旧・復興



オープンデータ利活用WG (第2回)

日 時：7月9日（木）15:00-17:00
場 所：金沢Rise

第2回WGを開催し、今年度の活動について以下の予定で進めることとした。

○観光DXなど先進分野の事例共有セミナー

【日時】10月15日（木）15時開始

【開催形式】オンライン

【講師】福井県観光連盟 佐竹 正範氏

○データ利活用ワークショップ

【日時】11月26日（木）14時開始

【場所】金沢駅周辺会議室

【講師】(株)jig.jp 福野取締役【主査】

【テーマ】「AIを利用したデータ活用入門」（仮題）

また、北経連WEBサイトの「データでみる北陸」については、オープンデータ化に向けて利用規約を作成し、掲載データのうち、オープンデータとして公開可能であることを確認できたものから順次オー

活動報告

ブンデータ化を進めることとした。



北陸戦略連携協議会（第3回）

日 時：7月13日（月）9:30-10:30
場 所：オンライン開催
参 加：17名

北陸三県と経済界が連携して取り組むべき諸テーマについて、必要な連携策の実施に向けて実務者レベルで議論を深めるための「北陸戦略連携協議会」を開催した。当協議会は、2025年度の「三県知事との懇談会」における合意を受けて設置されたものであり、今回は第3回目の開催となる。

今回は、2025～2027年度のテーマである「アンコンシャス・バイアスへの気づき」に基づき、北陸三県と当会が連携して実施する施策案等について議論を行った。

これまでの協議会における議論を踏まえ、連携策については、共同セミナーの開催等、参加しやすく効果が期待できる施策から着手し、その後、段階的に連携を深めていく方針を確認した。

今回取りまとめた連携策等については、8月31日（月）に開催予定の「三県知事との懇談会」において提案する予定である。

第13回北陸産学連携懇談会

日 時：7月22日（水）12:20-14:25
場 所：金沢大学
参 加：15名

会員大学長と北経連役員との北陸産学連携懇談会を開催し、大学からは金沢大学和田学長はじめ8名、北経連からは金井会長はじめ7名が出席した。

冒頭、金井会長が挨拶し、今年度からスタートした第六次中期アクションプランにおいて、オープンデータの活用や企業のDX推進と人材育成に取り組むこととしており、大学、企業それぞれのニーズに合致する形で、工夫をしながら連携を進めていくことが必要であると述べた。

続いて「DX人材育成とオープンデータ利活用について、現状と今後の課題・経済界への要望」をテーマに、事務局から北経連における取り組みを説明したのち、各大学が取り組む活動を紹介し、大学・経済界双方への期待や要望について意見交換を行った。

各大学の取り組みでは、社会人向けリスクリテラシープログラムの紹介、博士人材育成の取り組み、大学における研究に関する情報のオープン化の課題などについて紹介があった。

また、大学生に対する地元定着の取り組みや、社会人の博士人材育成などについて活発な意見交換が行われた。

最後に稲垣副会長から、これまで以上に産学が連携し社会人のリスクリテラシーに取り組みたいとの閉会挨拶があった。



金沢大学見学会

日 時：7月22日（水）14:35-17:05
場 所：金沢大学
参 加：33名

北陸産学連携懇談会に引き続き、金沢大学の協力のもと、新たな価値創出委員会と総合対策委員会の共催で金沢大学見学会を開催した。

和田学長が開会挨拶と概要説明を行った後、辻口教授が未来知実証センターでの「ギ酸を中心とした循環型社会形成に向けた取り組み」、前田教授がバイオマス・グリーンイノベーションセンターでの「セルロースの化学修飾による金属吸着剤の開発」、篠田副理事が「未来知 MITSUKE プロジェクト」について紹介した。未来知 MITSUKEプロジェクトは、既存の電気や水道などのインフラに頼らない、自立的な「集落」をつくるというのが計画の主な趣旨であり、地域住民と対話を重ねながら進めているとの説明があった。

その後の施設見学では、未来知実証センターにおいて実証研究を展開する学内シーズ「ショーケース」の説明を受けた。また、バイオマス・グリーンイノベーションセンターでは、複雑な工程を劇的に効率化する二軸混練押出機の研究設備などを見学した。質疑応答の後、新たな価値創出委員会 北村委員長から、今回の見学で得た内容をヒントに、北

陸地域の一人当たりGRP7百万円の目標を是非とも達成したいとの閉会挨拶があった。



北陸経済連合会 2026年度の主要行事スケジュール

開催日 (予定を含む)	主要行事	会 場	参加対象
8月31日(月)	第53回三県知事との懇談会 【会場】ANAクラウンプラザホテル富山	富山市	全会員
10月2日(金)	会員懇談会(富山会場) 【会場】ホテルグランテラス富山	富山市	全会員
10月14日(水)	西日本経済協議会 第68回総会	愛媛県松山市	全会員
11月19日(木)	第53回北陸地方経済懇談会(経団連との懇談会) 【会場】ホテル日航金沢	金沢市	全会員
12月1日(火)	会員懇談会(福井会場) 【会場】ホテルフジタ福井	福井市	全会員
12月8日(火)	第33回中部・近畿経済産業局との懇談会 【会場】ホテルグランテラス富山	富山市	理事以上
12月17日(木)	常任理事会 【会場】金沢ニューグランドホテル	金沢市	常任理事以上
1月27日(水)	新春経済懇談会 【会場】ホテル日航金沢	金沢市	全会員
2月17日(水)	会員懇談会(石川会場) 【会場】ANAクラウンプラザホテル金沢	金沢市	全会員

北陸経済連合会《事務局》

(2026年8月現在)

専務理事	東田 隆一	副部長	安倍 善志郎
常務理事・事務局長	魚屋 敦司	課長	宮西 啓一
事務局長代理	福井 聡	課長	宮下 愛美
部長	高島 哲史	課長	高橋 アカネ
部長	小島 正寛	課長	坂本 宜威
部長	蓑輪 博司	主席調査役	西野 大我
副部長	酒井 秀行	調査役	島田屋 龍斗
副部長	池澤 崇宏	副課長	越野 理恵
副部長	江戸 栄雄		稲木 京子
副部長	出口 俊久		墨屋 小百合
副部長	前田 篤志		

新会員のご紹介 (2025年9月1日～2026年7月31日)

株式会社イトーキ 北陸支店
(業種 製造業)

支店長 山本 真弥 様
〒920-0031 金沢市広岡1丁目1番35号 金沢第二ビル7F
TEL:076-263-3033 FAX:076-261-5955

佐藤工業株式会社 北陸支店
(業種 総合建設業)

執行役員副社長 支店長 川島 康広 様
〒930-8515 富山市桜木町1番11号
TEL:076-439-0355 FAX:076-433-6369

城西運輸機工株式会社
(業種 その他の識別工事業)

代表取締役社長 操川 一郎 様
〒920-0211 金沢市湊4丁目70番地
TEL:076-238-1313 FAX:076-237-3556

株式会社ワイズ
(業種 人材派遣業、有料職業紹介業、業務請負業)

代表取締役 北島 将都 様
〒920-0027 金沢市駅西新町3丁目1番10号 ニュースビル2F
TEL:076-294-0690 FAX:076-294-0680

新規会員ご紹介のお願い

ーつながる北陸・拓く北陸・魅せる北陸ー

「スマート・リージョン北陸」を目指す“北経連”への新規会員ご紹介をお願いいたします。

富山、石川、福井の三県からなる北陸地域は、急速に発展している東アジア諸国と日本海を介して対面しているとともに、東京、名古屋、大阪の三大都市圏に対して扇の要に位置しております。また、特色ある産業・技術の集積や豊かな自然環境、多彩な歴史・文化など多くの優れた地域特性を有しており、日本と対岸諸国との結節点として、更なる発展の可能性を秘めた地域であります。

私ども北陸経済連合会(略称:北経連)は、北陸三県をはじめとする関係機関と連携を図り、北陸新幹線や高規格幹線道路、港湾などの社会資本整備の促進、東アジア諸国との経済交流の促進、産業の振興支援等に積極的に取り組んでおります。

地域の主体性がますます重要となっている今日、これまで以上に北陸三県の経済界の総力を結集し、関係機関との連携、協働を進めていかなければなりません。

北経連の活動にご賛同いただける企業・団体の皆様のご紹介を、心よりお待ちしております。

入会ご希望の皆様へ
入 会 資 格:本会の目的にご賛同いただける法人、団体および個人
入 会 金:不要
年 会 費:1口 90,000円(1口以上)
入会お申し込み:下記、当会事務局までご連絡ください。

北陸経済連合会
〒920-0981 金沢市片町2-2-15北国ビルディング4階
TEL.076-232-0472 FAX.076-262-8127
HP <https://www.hokkeiren.gr.jp>
E-mail: info@hokkeiren.gr.jp

東京事務所
〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-2-1
霞が関コモンゲート西館24階北陸電力(株)東京支社内
TEL.03-3502-0471 FAX.03-3502-0460





訪れるたび、新しい物語が紡がれる。
あなただけの「北陸物語」に
出会ってください。

北陸物語WEBサイトでは、地元ライターが紹介する北陸三県の情報ははじめ、
多様な切り口で楽しめるテーマ旅の提案、自分に合ったおすすめの旅を診断できる「ほくりく旅診断」など、
北陸をより一層楽しめるコンテンツが充実しています。ぜひ、ご覧ください。

北陸三県（富山・石川・福井）をつなぎ、唯一の広域観光情報サイト
北陸物語 <https://monogatari.hokuriku-imageup.org/>



世界が変わる！芸旅



アートをめぐる旅



ドライブ快適旅



あなたにぴったりの
北陸旅がわかる
「ほくりく旅診断」

多様な切り口で楽しめるテーマ旅の提案

北陸物語事務局：北陸経済連合会・北陸イメージアップ推進会議

金沢市片町2丁目2番15号 TEL:076-232-0472 mail:kankou01@hokkeiren.gr.jp

北陸イメージアップ推進会議は、昭和61年9月に、北陸経済連合会と北陸三県（富山県・石川県・福井県）、北陸電力株式会社が共同で
北陸の正しい実態を広く北陸地域以外の人々に認識して頂き、北陸のイメージアップを図ることを目的として設立されました。



北陸経済連合会

〒920-0981 金沢市片町2丁目2番15号（北国ビルディング4階）

TEL (076) 232-0472(代) FAX (076) 262-8127

URL: <https://www.hokkeiren.gr.jp>

Email: info@hokkeiren.gr.jp